

明確な課題設定にむけて ―SS 発展探究第1回課題研究指導―

- ◇期 日:令和8年5月29日(金) 5・6時限
- ◇場 所:本校理科実験室・ゼミ室・教室・図書館
- ◇参加者:2学年探究科学科生徒81名・本校教職員
- ◇助言者:富山大学の先生方13名

今回の課題研究指導では、2年探究科学科生徒が数学・物理・化学・生物・国語・地公・英語の各ゼミに分かれて、これまで進めてきた課題研究の進捗状況を発表し、富山大学の先生方の専門的な立場からご指導・ご助言をいただき、今後の研究をより発展させるための貴重な機会となった。普段はなかなか触れることのできない大学レベルの視点や考え方に接することができ、自分たちの研究を客観的に見つめ直すことができたと思う。



私が所属する英語ゼミでは、富山大学の小木曾先生にご指導いただいた。私たちの班は、洋画を活用して日本とアメリカの文化やコミュニケーションの取り方の違いを調べ、多言語間におけるコミュニケーションをより円滑で正確なものにすることを目標として課題研究を進めている。研究テーマを検討する中で、英語の授業で学習した「ハイコンテキスト文化」と「ローコンテキスト文化」の違いに興味を持ち、その違いが映画の中でどのように表れているのかを調査したいと考えた。し

かし、実際に研究を進める中で、これらの概念は抽象的で、映画の場面から具体例を見つけ出して分析することは難しいとわかった。そのため、明確な方針を定めることができず、研究の進め方に悩んでいた。

そんな中で、小木曾先生は私たちの考えや疑問点を丁寧に聞いてくださり、それらを踏まえながら研究を進める上での観点やアプローチ方法について助言してくださった。また、ご自身の経験も交えながら説明してくださったことで、研究内容をより具体的に捉えることができた。また、私たちだけでは思いつかなかった新しい視点に触れ、課題への意識がさらに理解が深くなった。

私は今回の課題研究指導を通して、研究を進める上で、自分たちだけで考えるのではなく、専門的な知識を持つ方々から意見をいただき、多様な視点から研究を見直すことがいかに重要かを学んだ。課題研究指導後に改めて班員で行った話し合いでは、いただいた助言をもとにして研究方法や今後の方針について再検討し、今後取り組むべき課題を明確にすることができた。今回の指導で自分たちが抱えていた課題や疑問点を整理することだけでなく、今後取り組むべき内容をより明確にすることもでき、探究活動に対する意欲もさらに高まったと思う。

大学の先生方から直接ご指導・ご助言をいただける機会は、10月30日(金)の第2回研究指導と、12月19日(土)の三校合同発表会を経た後の1月29日(金)の課題研究発表会の2回のみなので、今回いただいた助言や学びを無駄にせず、今後の探究活動に生かしていきたい。また、次回の研究指導では、今回ご指摘いただいた点を改善し、より具体的な成果を示せるよう準備を進めていきたい。そして最終的には、自分たちの研究成果を分かりやすくまとめ、多くの人に伝えられる発表ができるよう努力していきたい。

